

平成27年度 事業報告書

ハーバー大慈

1. <平成27年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <施設理念>

児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛護・上敬下愛」に基づき、利用者の人権を尊重し、地域から信頼される施設を目指す。

3. <基本方針>

- ①利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する。
- ②母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する。

4. <ハーバー大慈における中長期ヴィジョン>

- ①入所者が金銭的、精神的、社会的に自立出来る様、自立に繋がる支援をする。
また、全職員が、そのヴィジョンに対し、共通の意識を持ち、業務を遂行する。
- ②内部組織の強化。
- ③地域の福祉ニーズを模索し、把握する。

5. <目標>

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする。
 - A) 入所時、入所後にケースワークを行い、母子と相談した上で、自立に向けた目標やプランを設定する。
 - B) 入所者の精神の安定を図る為に、必要に応じてケースワークの回数を増やす。
 - C) 金銭管理が必要な場合、金銭の預かりを行う。
 - D) 退所後、必要に応じて他機関との関係調整等、アフターケアを行う。
 - E) 児童にとって、より良い養育の為に支援を行う。
 - ・小、中学生の学力向上の為に勉強会。
 - ・母親への経済的自立への支援（子どもの病時保育等）。

自立に向けた目標やプランの設定など、個別のニーズに沿った支援を今年度も意識し、業務に取り組んだ。しかし入所期間が長い入所者に関しては、必要以上の支援が依存に繋がっているケースも見られたので、自立の妨げにならない様、本当にその支援が必要なのか、今一度自立へのプロセスを振り返り、今後の支援に繋げていきたい。

母親だけではなく家庭環境等を考慮し、児童によっては将来の為に貯蓄をする事の大切さを伝え、アルバイト代から児童と決めた金額を事務所で預かり、貯蓄をする様にした。（母にも同意を得る）

アフターケアは昨年度に引き続き3件行った。（内1件→児童の学習支援、内2件→金銭管理、病院等の付き添い、関係機関との連携、自宅訪問を行った）

②職員の資質の向上。

- A) 各職員が、自分自身の資質を理解し、資質向上に必要な研修（コーチング研修等）に積極的に参加する。
- B) 各職員がマニュアルに縛られず、自ら考え、行動出来る様に、会議等を通し、価値観の共有化を図る。

今年度も職員の資質向上を目的とし、各職員が様々な研修に参加した。研修の内容で良いものは取り入れる等、積極的な姿勢もあったが、研修に行くという事が目的にならない様、取り組みを考えていきたい。また、各職員が業務において、指示を待つばかりだけではなく、自ら考え、行動出来る様、日常より価値観の共有化を図り、一人ひとりが思いや考えを話せる風通しの良い職場作りを心掛けていきたい。

③リフレッシュ保育事業を通して、子育て支援を行う。

- A) 祝日の利用者が多いので、必要に応じて祝日の職員の出勤人数を増やし、受け入れの枠を広げる。
- B) リフレッシュ保育事業の広報活動。（広告の配布やインターネットへの掲載）

リフレッシュ保育事業を通し地域の保育ニーズに可能な限り応えた。また、子どもを預かるという機能だけではなく、利用した際の保護者からの相談業務等、また違った方法での子育て支援も数は少ないが行う事が出来た。引き続き地域のニーズに沿った子育て支援を行っていきたい。

※リフレッシュ保育の利用者数等は“1 2. <リフレッシュ保育>”を参照。

<入居者の異動利用状況>

区分		月別												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
初日在籍数		20	20	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	238
		45	45	43	43	46	46	46	46	46	46	46	46	544
入所	夫の酒乱暴行													
	住宅喪失													
	その他					1							1	
						3							3	
退所	公営住宅入居											1	1	
	民間住宅入居											3	3	
	復縁													
	再婚		1										1	
	その他		2										2	
短期保護	母子											1	1	
												2	2	
	婦人	1	1	2	1				1	2	2	1	2	13

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、1世帯2名 婦人は8名 延人員13名だった。

6. <<健康診断>>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O-157）	月1回	—	—

7. <<保健衛生>>

害虫駆除を行った（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室）。
業者に依頼し、各居室のエアコン清掃と排水管清掃（台所、浴室、洗濯機置場）を行った。

8. <<広報>>

毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。

9. <<行事内容>>

①母と子の運動会（湊小学校）

→例年、力を入れている、競技（綱引き）は準優勝だったが、優勝するという1つの目標に対し、全員が一生懸命に取り組むという姿を、今年度も見る事が出来た。子ども達にとっても、日頃、あまり見る事のない母親の姿を見る事で、特別な意味があると思うので、今後も参加者が一生懸命に取り組める様、雰囲気作り等、環境の設定をしていきたい。

②地藏盆

→昨年度と同様、入所者との食事会、地域の方へのお菓子の配布を行った。食事会は施設内で行い、出来る限り“職員による手作りの料理”という事をテーマに置き、メニューを考え、提供した。また現入所者だけではなく、近隣に退所された方にも声を掛け、3名参加した。今後もOB会同様、この様な機会を通し、アフターケアとして、関わりを持っていきたい。

③高校生エンジョイ（ディズニーシー）

→3年に一度、高校生以上を対象に行っている行事で、今回で2回目の開催となった。行き先は最初の段階で、ディズニーシーを含めた候補3ヶ所を、案として出し、子ども達の意見を聞き決定した。当日、交通手段は夜行バスを使い、天気も雨天で気温が低く、時間が経つに連れて、環境が厳しい状況になっていったが、どの児童も最後まで集団行動を意識し、秩序を保った行動を取っていた事に、施設内とはまた違った一面が見え成長を感じる事が出来た。

④個別対応遊び（月1回）

→今年度は、初めて男女合同（小学4年生以上）で、1泊2日のキャンプを行った。ねらいとしては、行事を通し社会性や自主性を育むという事で、昨年、女子のみで行ったキャンプと同様、役割等を決めたが、全体の人数や異性が増えた事が要因で、決められた役割をほとんど果たさない児童等も見られたので、今後の実施方法については考えていきたい。しかし、日常とは違い、職員と参加児童がまた違った環境で話をし、今まで話した事がないような話も聞く事が出来たので、そういった面では良い機会になった。

○年間行事（月極・・・母の会・避難訓練）

月	日	行事	月	日	行事	
4	8	昼食会	10	17	昼食会	
	13	昼食会		18	OB会	
	18	個別対応遊び（クッキー作り）		24	昼食会 個別対応遊び（芋掘り）	
		30		ハロウィンパーティー		
5	10	母子生活支援施設協議会 母と子の運動会（湊小学校） 母と子の運動会打ち上げ	11	1	アイススケート招待	
	16	昼食会 個別対応遊び（物作り）		8	児童エンジョイ（ひらかたパーク）	
	30	昼食会		13～	高校生エンジョイ（ディズニーマシー）	
		15				
		14		昼食会		
		21		昼食会 個別対応遊び（箸作り）		
		27		母親教室（サイバー講習会）		
		28		施設内忘年会		
6	4	害虫駆除	12	5	個別対応遊び（クリスマスリース・ スノードーム作り）	
	7	親子エンジョイ（京都）		12	昼食会	
	13	昼食会 個別対応遊び（卓球）		19	施設内クリスマス会	
	27	昼食会		25	昼食会	
	28	卓球大会		28	昼食会	
7	4	個別対応遊び（七夕の飾り付け）		1	7	個別対応遊び（もちつき）
	7	七夕（鮭寿司・豚汁）			10	母子生活支援施設協議会 新春母と子の集い
	21	昼食会			16	昼食会
	24	昼食会	23		新年会	
	27	昼食会				
	29～ 31	母子生活支援施設協議会 児童キャンプ（香住）				
8	3	昼食会 個別対応遊び（水遊び）	2	3	節分（巻き寿司・豚汁） 個別対応遊び（デコ巻き寿司作り）	
	11	昼食会		13	昼食会	
	17	昼食会		27	昼食会	
		料理教室招待				
	19	昼食会				
	19～ 20	個別対応遊び（淡路キャンプ）				
	24	地藏盆				
25	昼食会					
9	1	昼食会	3	3	ひな祭り（鮭寿司・豚汁）	
	6	母子生活支援施設協議会 バス旅行（東条湖おもちゃ王国）		4	母子生活支援施設協議会	
	12	焼肉パーティー		～6	児童スキー（ハチ高原）	
	19	昼食会		12	個別対応遊び（陶芸教室）	
	26	個別対応遊び（弁当作り・神戸ど うぶつ王国）		23	昼食会	
		25	昼食会			

10. 《学習指導》

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1～2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上の児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った。（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した。）
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。
中学生	週1回	英語・数学 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを用意した。 中3には受験前、学習スペースを提供した。
	テスト前は2日間連続	テスト範囲。
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

11. 《会議》

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	主任・リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設、こども福祉係・保護係等の各担当者）		

①職員会議（月1回開催）

会議では、行事の計画・反省、主任・リーダー会議の報告、今後の方針等の話をした。決められた時間の中で、有意義な会議が行える様、数年前より報告の方法等を改善した結果、時間内に必要な事を必要なだけ話し合える様になった。

②支援会議（月1回開催）

主に入所者の処遇について話し合い、各職員が様々な視点から意見を出し合った。また、話し合いの中で、職員全員が同じ価値観（意識）を持ち、各入所者に関わりが持てる様、担当者より、入所者の日常の様子や状況についても報告する様にした。今後も、より質の高い支援が行える様、会議を通し価値観の共有化を図っていきたい。

③リスクマネジメント会議（月1回開催）

1ヶ月分のヒヤリハット、事故報告書・相談記録・苦情報告書を議題に挙げ、対策等を話し合った。内容の重大さに関わらず各職員が高い意識を持ち、業務に取り組める様、引き続き、意見を出し合い、有意義な会議にしていきたい。

④主任・リーダー会議（月1回開催）

昨年と同様、今後の予定や人事等、施設としての方向性を施設長、主任、リーダー、サブリーダーで話し合った。

⑤リフレ委員会（月1回開催）

リフレッシュ保育について話し合いをし、行事がある際の受け入れ人数や、年々、減少している利用者数が要因等の分析を行った。子育て支援の一環として、地域に貢献出来る様、リフレ委員長を主に今後も進めていきたい。

⑥三者連絡会議（年2回以上開催）

例年と同様、施設と役所（福祉）の方で入所者の現況報告を行った。情報の共有を行う事で、

関係機関と連携が取れ、支援の幅も広がるので、引き続き、行っていきたい。

1 2. 《リフレッシュ保育》

① 27年度年間延べ866人（昨年度年間延べ1,291人）

→前年度より425人利用者数が減少した。要因としては、土、日、祝日に就労している保護者が減っている、年齢や勤務時間の関係で常連の利用者が減っている、幼保一元化（待機児童ゼロ対策）に伴い、以前までは利用していた様な新規の利用者が少ない事が挙げられる。引き続き、貼り紙等の広報活動を行い、地域のニーズに沿った子育て支援を行っていきたい。

平成27年度 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H27	89	76	42	63	71	77	66	70	104	66	71	71
前年比	+2	-16	-54	-56	-45	-34	-36	-48	-6	-58	-22	-52

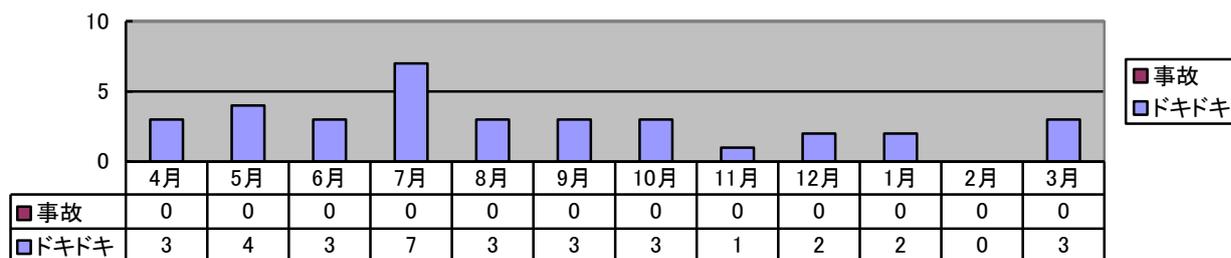
1 3. 《リスクマネジメント報告》

① 27年度ヒヤリハット報告件数・・・34件（学童保育は除く）

※26年度報告件数52件（学童保育は除く）

→7月が他の月と比べて多いが、夏休み等は関係なく、職員による利用者への対応や事務的なミスが多い。

ヒヤリ報告(件数)



② 27年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート） ※学童保育は除く

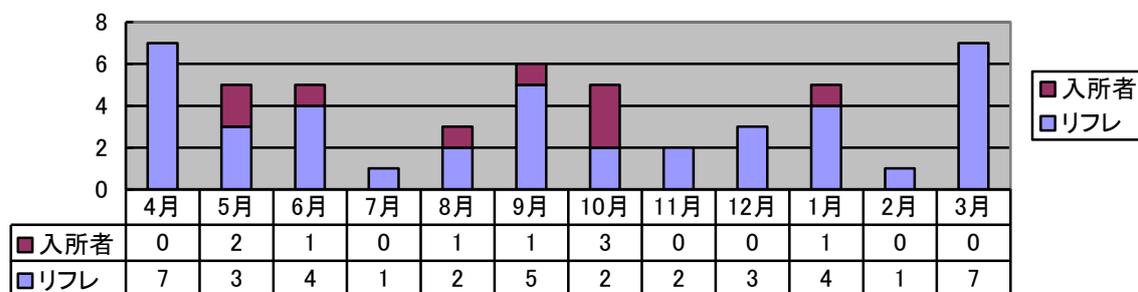
リフレ・・・41件 入所者・・・9件

※26年度報告件数（学童保育は除く）

リフレ・・・63件 入所者・・・4件

→リフレの発生数は不慮のケガが多い。入所者のケガは日、祝日の預かりが増えた為、それに伴い増えた。

ケガ報告(件数)



③発生場所別件数

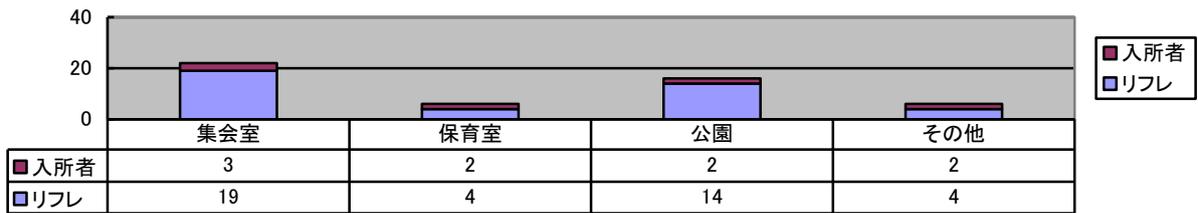
→職員による事務的ミスが多いので、事務所が多い。

ヒヤリ報告(場所)



→リフレッシュ保育児童は保育室や公園で過ごす事が多い為、件数もそれに比例している。

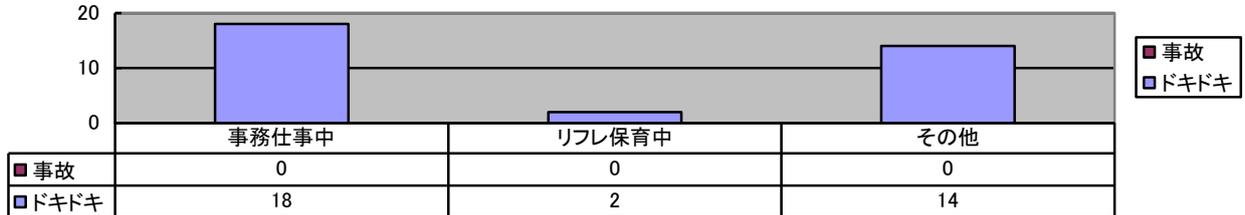
ケガ報告(場所)



④発生状況別件数

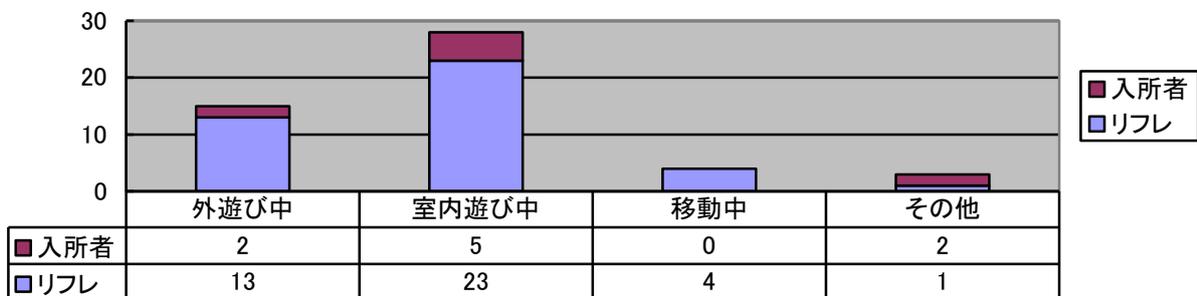
→その他は、利用者への対応時に起こったもの。職員による事務的ミスが多い為、事務所仕事中が多い。

ヒヤリ報告(状況)



→室内や公園での遊び中に起こる不慮のケガが多い。(リフレの“その他”はこべっコランド)

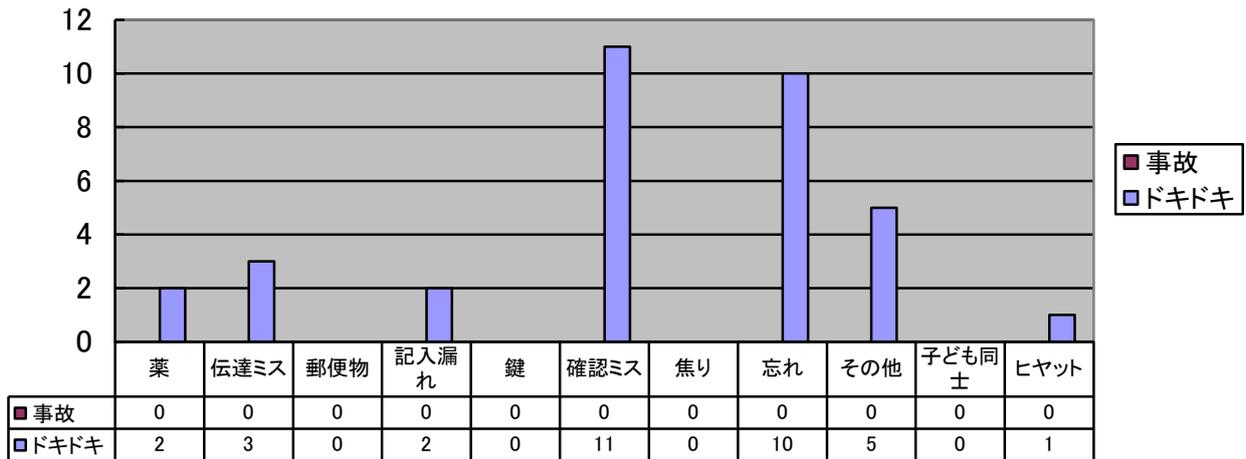
ケガ報告(状況)



⑤発生内容別件数

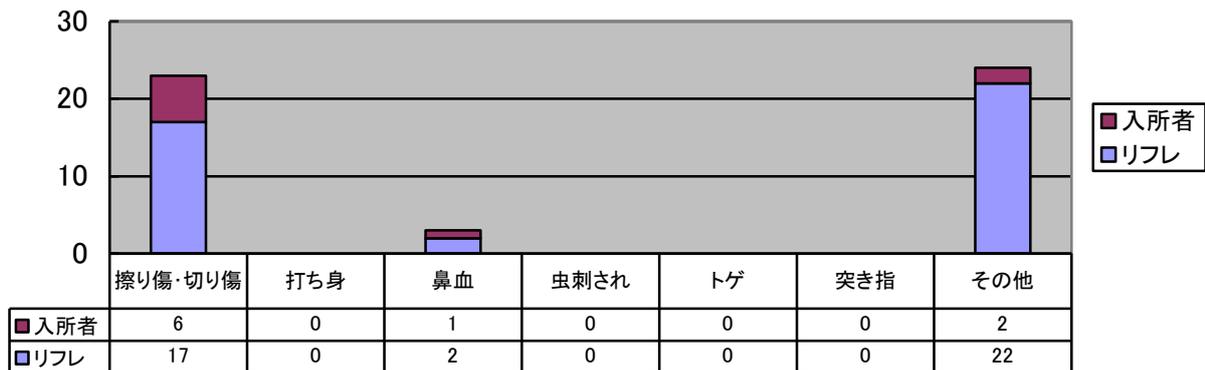
→確認ミスや忘れる事が多く、伝達ミスに繋がっている。その他は利用者への対応中の判断ミスが含まれる。

ヒヤリ報告(内容)



→転ぶ等のケガが多いが、その他の理由としては、児童同士がぶつかったりした事等によるケガも多い。

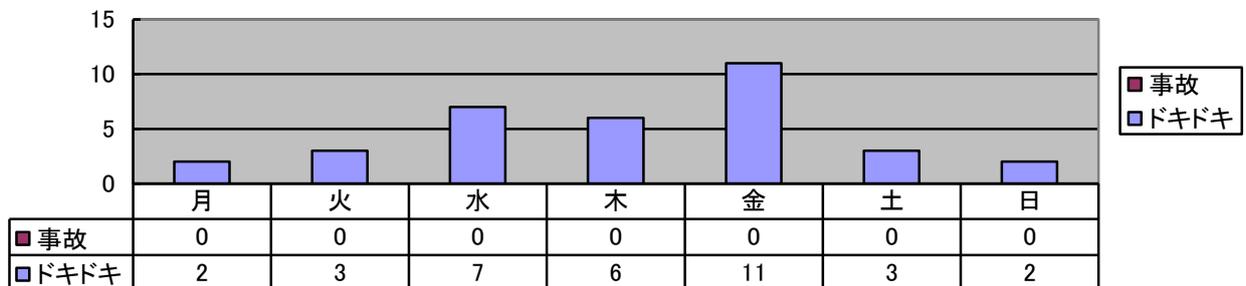
ケガ報告(内容)



⑥曜日別件数

→曜日によっての特記事項はないが、特に金曜日が多い。

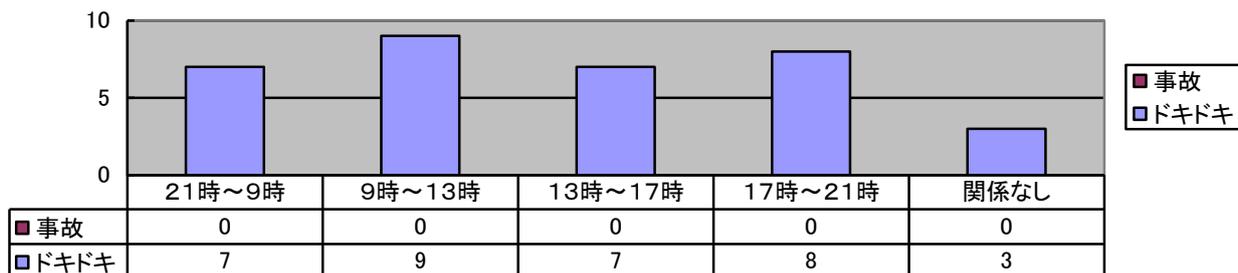
ヒヤリ報告(曜日)



⑦時間帯別件数

→職員が事務作業を行う、9～21時にかけて多い。

ヒヤリ報告(時間)



⑧まとめ

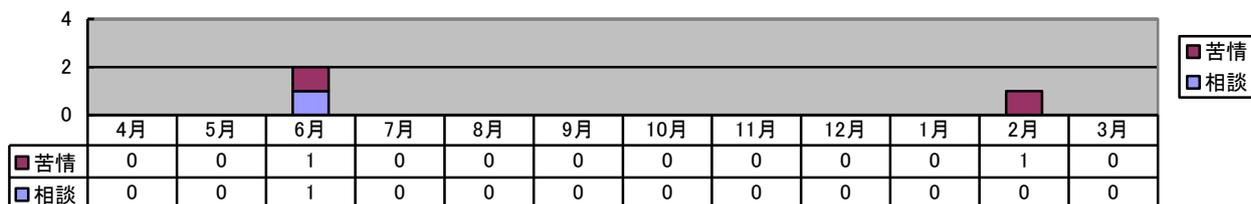
- ヒヤリ→今年度、その他として5件挙がっているが、利用者への対応中に関する判断ミスが含まれている。原因としては、一人で解決しようとした事が挙げられる為、相談しやすい環境が作れる様、お互いに声掛けを行い、リスクの軽減に努めていきたい。
- 事故→今年度、施設リフレッシュ保育において、事故報告はなかったが、次年度もゼロになる様、高い意識を持ち業務に取り組んでいきたい。
- ケガ報告→転んだり、児童同士がぶつかったり等、未然に防ぐ事が難しい不慮のケガが多かった。ケガの把握、ケガに対する処置が適切に行える様、日頃よりリスクに対する意識を高めていきたい。

1.4. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。
件数…苦情2件、相談1件

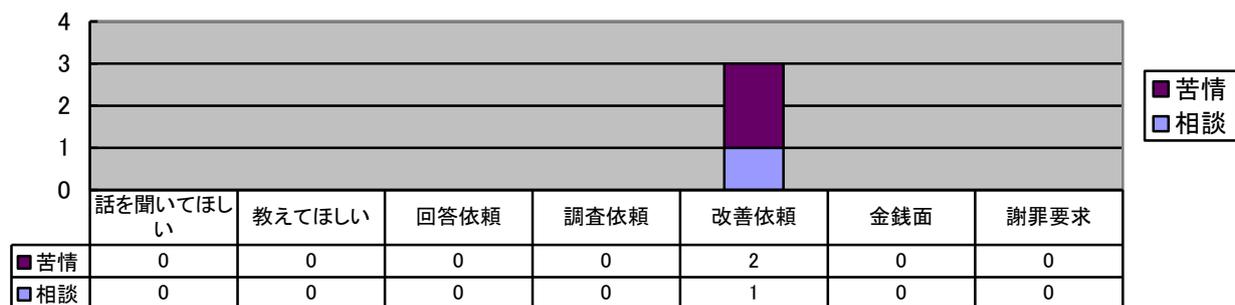
○報告件数

平成27年度				平成26年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	3件	2件	1件		2件	1件	1件

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



○主な内容 (入所者、リフレッシュ保育利用者)

- ・(苦情) 隣の居室に、時間も遅いのに人が集まり、騒いでおり、うるさい。
- ・(苦情) 学童保育の児童とリフレッシュ保育の児童が、一緒に過ごす事を前もって言ってほしかった。
- ・(相談) 隣の居室の騒音。

○まとめ

相談と苦情(内1件)は同じ入所者からで、隣人の騒音に対してだった。職員より状況を説明し、各居室での集まりは控えてもらう様に伝え、全入所者が心地よく生活できる施設作りに協力と理解をしてもらった。学童保育の児童とリフレッシュ保育の児童と一緒に過ごす件については、初めて利用される方には、施設内での過ごし方について、説明する様に改善した。今後も、入所者、利用者との信頼関係が築いていける様に、素早い対応、対策に努めていきたい。

15. 《総括》

処遇面において、目的を明確にし、全職員が同じ価値観を持って支援に携われる様、今年度は講師を招き、現入所者の事例検討を初めて試みた。支援会議とは、また違った視点で話し合いをし、担当職員がどのような思いで携わっているのか、他の職員にどのような連携を求めているのか等、より深く知る事が出来たので、情報、処遇の共有化という面で、良い場となった。

また、携帯電話等のネット社会のリスクという時代の流れに沿った問題にも着眼し、警察より講師を派遣して頂き、職員・入所者を対象にサイバー研修も初めて行った。今後もより質の高い支援が行える様、職員全体の資質の向上と時代のニーズに沿った支援に努めていきたい。